



自主防災組織 曙第24町内会防災会

曙第24町内会（佐藤 龍 生会長、235世帯）を母体とする自主防災組織として、平成9年に結成されました。以来、会長の佐藤さんをはじめとする会員の熱意の下、防災訓練の実施や防災用品を計画的に管理するなどして、地域に根差した防災活動を展開しています。昨年度からは、札幌市消防局の行う「普通救命講習」の受講を進めており、いざという時に主体的に行動できる人材育成にも取り組んでいます。

防災会の心臓部を拝見

手稲フレンド公園（前田6条16丁目）に設置された防災倉庫には災害時に必要な資材を保管。ヘルメットや手袋などから救難用のジャッキやボルトカッター、さらに医薬品やメガホン、懐中電灯などに至るまでが取り出しやすく格納されています。防災会として購入したものはもちろん、各会員の家庭から寄付されたものもあります。

これらの資材は毎月数量や使用状態などが点検されており、いざという時に備えられています。また、冬期間は除雪当番の会員が倉庫の周辺の除雪を行っています。



▲必要な資材がコンパクトに収納された防災倉庫

会長の佐藤さんにお話を伺いました



防災会を立ち上げた時のエピソードなどは？

町内会の代表7人で設立準備プロジェクトを組織しました。まず始めたのは会則を作ることでした。毎週土曜日に私の家に集まり、一年半以上もかけて会則や活動計画を考えました。

防災会を運営していく上での大切なことは何ですか？

まず、しっかりした会則を決めることです。しっかりと人命救助を目的とした会則の存在が組織としての骨組みを固めます。また、それぞれの会員が災害発生時にどのような役割を担うのか、日常きちんと確認することを習慣付けることが大切です。

今後、防災会として取り組んでいきたいことはありますか？

町内のお年寄りや、体が不自由な方の人数や住んでいる場所が一目で分かる名簿を作成することです。併せて、お医者さんや看護師さんなど、災害時に求められる専門技術者の有無も把握しておきたいですね。

★自主防災組織についてのお問い合わせは、手稲区総務企画課庶務係 ☎681-2400へ

家庭での取り組み

を持ち、平常時から町内会などの組織で、住民同士の触れ合いを保ち、同じ地域に住む仲間としての連帯感を持つことが大切です。このような、地域のコミュニケーションを基礎とする住民組織が、自主防災活動の主体を担っていくのです。私たちが生活する手稲区ではすでに多くの自主防災組織が結成され、防災訓練や防災マニュアルの作成、地域の防災点検など独自の防災活動を展開しています。

地域での防災の主体となる自主防災組織と同様に、各家庭でもいざというときの備えは欠かせません。家庭内で定期的に災害発生時の役割の分担、連絡方法や